

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年八月度 入選句（投稿総数二千四十三句・小中学投句数千二百六十七句）

### 特選

選者 高木 佐知子

ビートばんおいておよぐぞ五メートル 大垣市 川瀬 愛莉(小二)

夏になると、目標を立てて今年こそと泳ぎに挑戦する子どもたちがいいます。中七の「おいておよぐぞ」に作者の強い決意がよく表れています。ビート板を使って水と仲良くなった後、いよいよ五メートルに挑戦しようとする勢いが、読み手にしつかり伝わる俳句です。思いの詰まった中七が生きている元気な一句になりました。来年の夏が待ち遠しくなったことでしょう。

ところてんちゆるっと口にすべりこむ 大垣市 竹中 友実香(小五)

暑い夏の午後、心太(ところてん)を食べて涼んでいる様子が浮かびます。「ちゆるっと口に」の中七と「すべりこむ」の下五が、ともに軽快感を表し、俳句を明るくしています。作者が心太を食べていることを、心太が口にすべりこむと表現していることや「ちゆるっと」という擬態語を用いていることが工夫されている点として光る一句です。

いたずらにぼうしをとばす初夏の風 大垣市 仲井 心菜(小六)

夏が近づいてきたことを知らせるすがすがしい初夏の風に吹かれていると、心地よく明るい気持ちになります。そんな時、やさしい風にふわりと帽子がとばされた様子を、あたかも風のいたずらであるかのように表現しているところが、初夏の明るさと重なります。作者はもちろん読み手も笑顔になれます。俳句が心と心をつなぐことを実感できる一句です。

### 秀逸

なつみかんたべたらくちがしぼんじやう 大垣市 高橋 快斗(小二)

こうえんでせみのぬけがら見つけたよ 大垣市 しばた ももこ(小二)

バッタがびよんわたしもびよんびよんつかまえる 大垣市 たいら まな(小二)

つゆの空ちよっぴり不きげん風強し 大垣市 竹中 晴紀(小六)

また来たと庭のあげはに話す祖母 大垣市 平田 ひなの(中二)

炎昼やスマツシユ決めて勝ち上がる 大垣市 安福 翔太(中二)

夏野菜バリバリはおととなりまで 大垣市 村中 美咲(小六)

夏に向けひまわりだって背伸びする 美濃加茂市 エブエンガ シミエコ(中二)

なつのゆうせんたくたたみがんばった 大垣市 とよなが しょう(小二)

空をさす川灯台と青葉かな 大垣市 小宅 穂之香(小六)

入選

かたつむりはつばのうえであめをまつ	大垣市	かとう	ほのか(小二)
スイカわりみぎだひだりだややこしい	大垣市	くぼた	かほ(小二)
おにいちゃんラディッシュそだてる夏休み	大垣市	ふじつか	深月(小二)
ホタルくんとおまわりしておいかける	大垣市	いのうえ	りりか(小二)
ともだちがあそびに来るよ夏の空	愛知県あま市	原	たくみ(八才)
水草にコイかくれては顔を出す	大垣市	東海	祐輝(小六)
木もれ日にささやきとおる青葉風	大垣市	松原	愛華(小六)
はえたたきいくらやつてもにげられる	大垣市	寺倉	義人(小六)
せみのこえうるさいほどに人をよぶ	大垣市	田中	柚羽(小三)
梅雨あけてかさも私も一休み	美濃加茂市	田辺	彩乃(中二)

入選

行く子らをそつと見守るあさがお二つ	美濃加茂市	川島	若菜(中二)
日焼したうでがふくからのぞいてる	美濃加茂市	傍島	香穂(中二)
あさがおがふたつさいたようえきばち	大垣市	わたなべ	しょうた(小二)
もやいぶねやねにうつるはあおぼかけ	大垣市	高橋	大和(小六)
水くさの下からひよっこりコイのかお	大垣市	明石	悠幹(小六)
庭先で帽子でさえぎる夏の光	大垣市	菅	優伽(小六)
せのびして見上げた枝にセミの声	大垣市	柳瀬	陽海(小六)
夏の川水くさおどるこいのぼる	大垣市	澤	一輝(小六)
朝顔と早起き競走今日も負け	大垣市	小野	葵(小五)
スイカわりぼくの出番がこないんだ	大垣市	宮坂	信之介(小五)

選者吟

初きゆうりとげ光らせて曲がりけり

佐知子